

あいちシェイクアウト訓練の実施について（案）

1 目的

県民総ぐるみ防災訓練の一つとして、南海トラフ巨大地震等の大地震発生の際に、県民それぞれがその場に応じた身の安全を確保する訓練（シェイクアウト訓練）を県内全域において実施することにより、地震発生時に参加者自らが身の安全を確保する行動を理解するとともに、県民の防災・減災に関する意識を高めることを目的とする。

2 訓練概要

県民が地震発生時に自らの身の安全を確保する行動を考えるきっかけとするため、その場で手軽に実践することができる防災訓練として、県内全域では初めてとなるシェイクアウト訓練（詳細は別添を参照）を実施する。

3 主唱

愛知県防災会議

4 主催

愛知県

5 協力

あいぼう会、愛知工業大学、シェイクアウト提唱会議
※今後、協力機関は随時追加予定

6 実施日時

平成25年9月1日（日）正午から1分間を基本とする
※ただし、必ずしもこれに縛られる必要はなく、参加表明を行い独自（実施日、実施時間）に実施することも可

7 対象者

県内全域の県民等

8 参加方法

参加予定者は、事前に指定されたサイトにて必要項目を入力して参加表明を行い、当日は、その場で訓練を実施する。

※FAXや電話による申し込みは検討中

必要項目（予定）は、

- （1）居住地・所在地の郵便番号
- （2）氏名（ニックネーム可）・企業名・団体名・グループ名等
- （3）参加人数

入力フォームの作成及び集計については、愛知工業大学地域防災研究センターの協力を得て実施予定。

9 訓練開始合図の伝達方法

時報を基本とする

その他、防災行政無線、館内放送、テレビ・ラジオ 等

※エリアメールの使用は、過去の開催県等の実績から、メールの受信、未受信に興味に向いてしまい、実際の行動につながらないとともに、受信音が迷惑となる方（葬儀参列者等）への受信や未受信等による苦情も非常に多いことから使用しない。

10 ロゴマーク



シェイクアウト提唱会議より提供
デザインを変更しなければ他機関等で
広く使用可

11 キャラクター



シェイクアウト提唱会議が日本独自のキャラクターとして使用中（デザインを変更しなければ他機関等でも広く使用可）

※ケイクは、平成21年度から本県が参加している室内安全対策都府県共同研究会（東京都・新潟県・静岡県・**愛知県**・京都府・大阪府・兵庫県・徳島県・福岡県）で企画・制作したもの。

平成 2 5 年度の愛知県の防災訓練計画（案）

○ 愛知県災害対策本部運用訓練

- 1 日時
平成 2 5 年 8 月 3 1 日（土）午前
- 2 場所
愛知県庁災害対策本部室、災害情報センター等
- 3 主催
愛知県
- 4 想定災害
南海トラフの巨大地震
- 5 訓練の内容
災害対策本部の運用を確認し、災害対応能力の向上を図るための図上訓練・通信訓練を実施する。
なお、当該訓練は、国の総合防災訓練大綱に記載された、内閣府と南海トラフ巨大地震対策中部ブロック協議会の 6 県 3 市及び国の地方機関等が連携して実施する「東海地域広域連携防災訓練」として位置づけて行うとともに、内閣府が主体となって実施する「広域医療搬送訓練」と連携して行う。

○ 愛知県・稲沢市総合防災訓練

- 1 日時
平成 2 5 年 9 月 1 日（日）午前
- 2 場所
サリオパーク祖父江（稲沢市祖父江町・木曽川河川敷）
- 3 主催
愛知県、稲沢市
- 4 想定災害
南海トラフ巨大地震
- 5 訓練の内容
防災関係機関、地域住民等の協力・連携のもとに、災害応急対策に係る総合的な訓練を実施する。

○ あいちシェイクアウト訓練

- 1 日時
平成 2 5 年 9 月 1 日（日）正午から 1 分間を基本とする
※ただし、上記以外で独自に実施することも可とする
- 2 場所
県内全域（自宅、職場、学校、外出先等）
- 3 主催
愛知県
- 4 協力
あいぼう会、愛知工業大学、シェイクアウト提唱会議
※協力機関は随時追加予定
- 5 想定災害
南海トラフ巨大地震
- 6 訓練の内容
大地震が発生したことを想定し、指定された日時に、県民それぞれがその場（自宅、職場、学校、外出先等）で、地震から身を守る安全行動を行う。

○ 愛知県・美浜町津波・地震防災訓練

- 1 日時
平成 2 5 年 1 1 月 1 7 日（日）午前
- 2 場所
日本福祉大学（知多郡美浜町奥田）他
- 3 主催
愛知県、美浜町
- 4 想定災害
南海トラフ巨大地震及び大津波
- 5 訓練の内容
地域住民が、津波避難場所に向けて避難訓練を実施するとともに、防災関係機関等の協力・連携のもとに、災害応急対策に係る訓練を実施する。

8月31日防災訓練イメージ図

7:00発災

8:00開始予定

災害対策本部運用訓練

広域医療搬送訓練

職員参集

愛知県災害対策本部運用訓練 (災害情報センター)

災害情報センター要員による、センターの設置・運用訓練を実施し、各班の基本的な業務の習熟を目的として実施を

救出・救助にかかる連携訓練

救出救助プロジェクトチーム運用訓練 (自衛隊・警察・四管など)

各防災関係機関が県庁に参集をして、各方面からの救出・救助要請を調整するオペレーションを実施する。

災害医療調整本部設置・運用訓練

災害医療コーディネーター等の医療関係者及び健康福祉部職員により、県内の災害拠点病院の負傷者受け入れに関する連絡調整、DMATの県内各地への派遣調整、負傷者の広域医療搬送の調整などのオペレーションを実施する。

消防応援活動調整本部設置・運用訓練

県内各消防及び緊急消防援助隊の運用を行い、救出・救助にかかるオペレーションを実施する。

災害拠点病院から入力された情報を活用して、負傷者の搬送先を検討する訓練を実施

災害拠点病院

被害想定に基づき、災害拠点病院において、広域災害・救急医療情報システムへの入力訓練を実施する。

広域医療搬送実施の要請

広域医療搬送実施の決定

10:30頃開始

SCU設置訓練(名古屋空港)

ヘリテレ映像配信訓練

負傷者搬送にかかる映像配信を実施する。

調査班による衛星通信(指揮車)を使用した映像配信

11:30頃開始

SCU運営訓練(名古屋空港)

知事・副知事・担当部局長

視察

訓練は継続

訓練終了

11:30開始

知事・副知事・担当部局長

訓練講評及び県民への呼びかけを実施

知事による災害対策本部運用訓練の訓練講評及び防災週間になんだ県民への呼びかけを実施する。

緊急物資チーム設置・運用訓練 (2階講堂)

災害対策本部と連携して、緊急物資の県内調整を行うプロジェクトチームを設置・運用する訓練を実施する。

石油コンビナート等防災本部運用訓練

災害対策本部と連携して、コンビナート地区における事故発生時の対応訓練を実施する。

東海地域広域連携防災訓練

連携

6県3市災害対策本部連携訓練

政府緊急災害現地对策本部と連携して、中央防災無線を使用した情報伝達・テレビ会議を行う、通信運用訓練を実施する。

政府緊急災害現地对策本部(自治センター)

政府緊急災害対策本部(内閣府)



The Great Japan Shake Out



DROP!



COVER!



HOLD ON!

The Great
Japan
**Shake
Out**™

www.ShakeOut.jp

アメリカで始まった新たな防災訓練ShakeOut

The Great California ShakeOut

ShakeOutは、アメリカ西部の南カルフォルニアのサンアンドレアス断層による地震被害の科学的な推定結果を広く社会に周知するために、ロサンゼルスを中心として2008年に始まった新しい形の地震防災訓練です。毎年10月の第3木曜日に実施されています。

この訓練の特徴は、(1)統一した地震シナリオのもとづくり、(2)訓練日時を指定し、(3)Drop Cover Hold onという身の安全を守るための短時間の統一行動へのいっせい参加を住民に呼びかけていることにあります。



発生時の安全確保行動1-2-3 (Drop, Cover, and Hold On)



2011年の訓練にはロサンゼルス市長も参加し、日本・中国をはじめ各国メディアが取材に訪れました。

このよびかけに応え、2008年の第1回訓練には学校等を中心に570万人が参加しました。その後訓練は参加者の口コミ等を通して年々参加者を増やし、2011年の第4回訓練には950万人が参加するまでに急成長しています。今やShakeOutは、たんなる防災訓練ではなく、新たな国民運動ともよべる社会活動に発展してきています。



日本版ShakeOutの提唱

The Great Tokyo ShakeOut

アメリカでのShakeOutの発展を目の当たりにした林春男(京都大学防災研究所教授)が2010年末頃より日本版ShakeOutの実施を提唱し、関係者と準備を開始しました。

林はアメリカ側運営責任者と協議し、日本での普及の承諾を得るとともに、2011年10月20日のロサンゼルスでのShakeOutの場において日本でのShakeOut実施を提唱しました。

こうしたなかで東京都千代田区が2011年11月

18日に、これまで1月に行ってきた帰宅困難者訓練を発展させて、2012年3月9日午後1時にShakeOutを実施しました。

2012年1月16日には、ShakeOutを日本で普及するために「効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議」(略称:ShakeOut 提唱会議)も発足しました。

日本版ShakeOutでは、ShakeOutを「いっせい防災訓練」と意識し、各学校、各職場で実施してきた防災訓練の統一の実施をよびかけています。



The Great TOKYO ShakeOut 第一弾として、 震災から1年にあたる2012年3月9日に千代田区にて実施

あなたのまちでも ぜひ ShakeOut 実施を

日本初のShakeOut訓練である東京都千代田区の訓練が、2012年3月9日午後1時に実施されました。詳細は<http://www.shakeout.jp/>にてご確認ください。

さらに提唱会議では、ShakeOutを日本全国に広め、防災訓練を活性化させることをめざしています。あなたのまちでもぜひShakeOut実施にご協力をお願いします。



写真はカリフォルニアで実施されたときのものです。

何をすればいいの～ShakeOutの基本行動

ShakeOutの基本行動は、

- 1) 指定された日時に、
- 2) 地震から身を守る安全行動1-2-3

Drop Cover Hold on (図参照) を、

3) 各人がいる場所(職場、学校、外出先等)で1分程度いっせに行うことです。小中学校等では机の下に入る行動として実施しているところもあります。

地震による人的被害の多くは、揺れによる家具等の倒壊、落下物等による負傷です。身を守るためには、周囲をよく見る、落下物から離れる、低くなる、頭を守るが効果的な行動です。

地震の震源が遠い場合には、気象庁の緊急地震速報が地震の大きな揺れが来る数秒前に専用端末、テレビ、ラジオ、携帯電話等で発せられます。

緊急地震速報の訓練用放送をShakeOutにおいて活用し、決められた時間に流してDrop Cover Hold onを実施するのも良いアイデアです。

安全行動の1-2-3



- ①ドロップ:姿勢を低く!
- ②カバー:体・頭を守って!
- ③ホールド・オン:揺れが収まるまでじっとして!



やってみよう! あなたの住まいや オフィスの安全対策



1. 写真を撮る

デジカメを使って対策したい部屋の家具・家電がいろいろな方向から写るように写真を撮ります。

2. プリントする

各部屋ごとに、家具がよく見える写真を何枚かを選び、出来るだけ大きくプリントアウトしましょう。

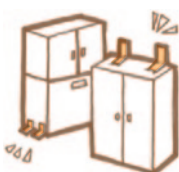


3. キケン を把握する

プリントした写真と右ページを見比べ、各々の家具・家電にどんな危険があるかをチェック。室内の危険を把握します。

4. 対策を考える

部屋ごとの家具・家電を一覧(リスト)にし、右ページを参考にしながら、とるべき対策を考えましょう。



5. 対策をとる

すぐにも対策を実行しましょう。すべて終わるまで写真と一覧(リスト)はしっかり保存。これをホームセンターなどに持っていけば、家具固定の相談の材料になります。

ShakeOutの安全行動とともに



地震の揺れから身を守るためには、とっさのDrop Cover Hold onだけでなく、日頃からの建物の耐震補強、家具の固定等により効果が増します。

地震の揺れ(クェイクくん、イラスト参照)には悪さをする5匹の手下がいます。うごく、たおれる、とぶ、おちる、われるの5匹です。

とっさの地震の揺れ(クェイクくん)に勝つにはDrop Cover Hold onは効果がありますが、地震

の揺れが来る前に、地震の揺れ(クェイクくん)の手下である5匹を見つけてできるだけ退治しておくことも必要です。

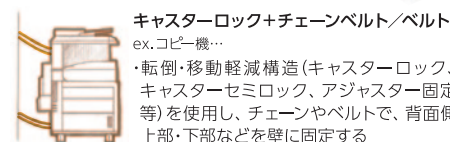
あなたの身近にある家具や家電製品、照明器具、本箱、調度品、ピアノ、プリンター、コピー機等が、地震の大きな揺れであなたを襲う凶器にならないようにしましょう。

「うごく」ものの固定

耐震粘着マット(床固定)

ex. ダイニングテーブル・ベッド・テレビ台…

- ・底部に耐震粘着マットを貼り付ける
- ・重量やマットの種類で、必要枚数が異なるので注意する



キャスターロック+チェーンベルト/ベルト

ex. コピー機…

- ・転倒・移動軽減構造(キャスターロック、キャスターセミロック、アジャスター固定等)を使用し、チェーンやベルトで、背面側上部・下部などを壁に固定する

ご注意!

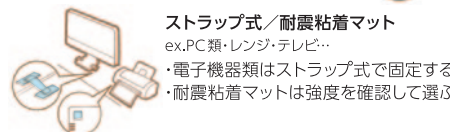
・しっかり固定するには機器の取付箇所、機器全体上下接合部の強度が必要です。
・最適な対応が重要となり、対応方法がメーカーや機種ごとに変わる場合があります。販売店等にご相談ください。

「とぶ」ものの固定

ラッチ

ex. 食器棚・冷蔵庫・キャビネット類・書庫…

- ・開き戸・引出しにラッチを付け、収納物の飛出しを防ぐ
- ・飛出し防止ゴムや滑り防止布を敷くのも効果的



ストラップ式/耐震粘着マット

ex. PC類・レンジ・テレビ…

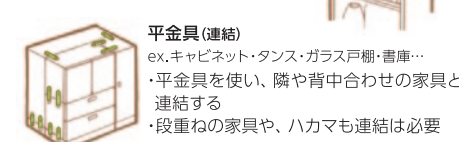
- ・電子機器類はストラップ式で固定する
- ・耐震粘着マットは強度を確認して選ぶ

「たおれる」ものの固定

L字金具(壁固定)

ex. タンス・食器棚・冷蔵庫・サーバーラック…

- ・L字金具を使い、壁に固定する
- ・固定位置は、柱や間柱・胴縁など丈夫な部分を選ぶ



平金具(連結)

ex. キャビネット・タンス・ガラス戸棚・書庫…

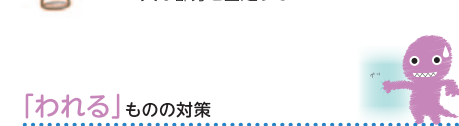
- ・平金具を使い、隣や背中合わせの家具と連結する
- ・段重ねの家具や、ハカマも連結は必要

「おちる」ものの固定

ヒートン+チェーン(天井固定)

ex. 照明・額…

- ・強い力がかかるため、固定点の強度が重要
- ・ヒートンを使用し、チェーンや紐で天井の丈夫な部分と固定する



「われる」ものの対策

飛散防止フィルム

ex. ガラス戸棚・食器棚・ガラス窓…

- ・まず、ガラス戸棚・食器棚など家具自体を固定する
- ・ガラス部分全体に飛散防止ガラスフィルムを貼る



日本版ShakeOutの考え方

1.日本版ShakeOutがめざす訓練とは

今までの日本での防災訓練の成果をふまえて、次のような訓練をめざします。

- 一、短時間で終わる訓練
負担をかけない、参加しやすい
- 一、効果を実感できる訓練
納得する、行動として体得する、忘れない
- 一、気付きがある訓練
知識が増える、理解が深まる
- 一、助け合いの大切さがわかる訓練
自助・共助の大切さを実感する

2.日本版ShakeOutの目的とは

個々人の防災リテラシーの向上をめざします。

防災リテラシーの具体的な内容として

- 災害にあっても「ケガ」をしない
- 身近な人を助ける
- 地域の防災力向上に貢献できる人を育てる

3.日本版ShakeOutの方法とは

防災リテラシーを向上させるためには、画一的な行動を指示によって反復する訓練のくり返しではなく、その場で何をすべきかの目的を明確にし、適切な行動を選択できる能力を向上させることが求められます。つまり自ら考える力を養う訓練です。

～ShakeOutでの統一した地震シナリオの重視～

ShakeOutの訓練においては、科学的想定にもとづく地震シナリオの構築を重視しています。

東日本大震災では「想定外」「想定を上回る」ということが盛んに言われました。これまでの防災訓練においては、地震シナリオがしっかりと構築されていない場合が多かったこともその原因です。どのような地震が発生するのか、それによってどのような被害が発生するのかを深く考えずにきました。

その結果、具体的にどう対応するかを検討するより

4. ShakeOutの訓練メニュー

- 1) 原点に立ち返る：自助の基本は「ケガをしない」こと、そのことの大切さを理解し、そのための適切な方法を身につける

■身を守る

安全確保の1-2-3:

■屋内の危険をみつけ、退治する

クェイクと5匹の手下：うごく+たおれる+とぶ
+おちる+われる



- 2) 基本行動以外にも、今後、以下のようなプログラムを開発し、提唱する予定です。

■避難する

■安否を確認する

■情報を集める/伝える

■いのちを救う

■避難所で生活する

■生活再建に向けて

皆さんからの訓練アイデアを募集しています。どしどしShakeOut ホームページに書き込んでください。

効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議とは

現在の日本で実施されている防災訓練の多くは、かならずしも科学的想定にもとづく統一した地震シナリオにより実施されていません。その多くは会場参加型の動員型訓練であり、参加者も限られ、訓練の目標と必要性が多くの人に伝わりきれておらず、年々参加者も減少する傾向にあります。

東日本大震災が発生し大きな被害が発生しましたが、今後、首都直下地震、東海・東南海地震・南海

地震等の大規模地震の発生が懸念されるなかで、地震による被害を軽減し、住民の安全を守るためには、現在の防災訓練のあり方を見直すこと、とりわけ参加者を飛躍的に増加させることが急務となっています。

私たちはこうした考えに賛同する防災研究者を中心に組織を結成し、全国に防災訓練と防災啓発のあり方の見直しを提唱しています。

首都直下地震 東日本大震災以後、切迫度増す

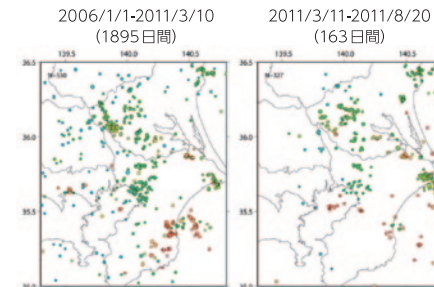
東日本大震災以後、実際に首都圏での微小地震の発生回数が震災前より5倍以上増えており、余震の影響との関連性も含めて大きな関心を集めています。

この結果をもとに酒井慎一東京大学地震研究所准教授他は、政府地震調査委員会の「余震の確率評価手法」

を東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)による首都圏の誘発地震活動に適用し、今後誘発されて起こりうるM7の発生確率を計算しました。(2011年9月時点)

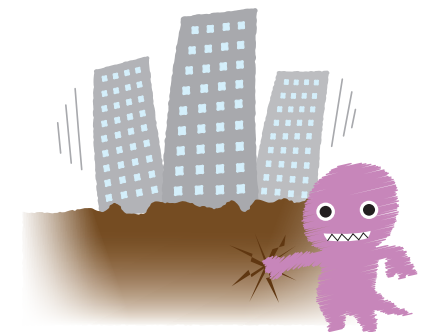
その計算結果、4年以内で70%、30年以内で98%という東日本大震災前の政府想定を上回る高い数値が算出されました。

■首都圏の地震活動の活発化



3.11以前の5年間にくらべて地震発生率は約7倍

気象庁一元化震源



◎会の役員

会長 林 春男 京都大学防災研究所教授
副会長 平田 直 東京大学地震研究所教授
顧問 石原信雄 元内閣官房副長官
石川雅己 東京都千代田区長
結成日 2012年1月17日

◎事務局

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-15-2
九段坂パークビル3階 災害救援ボランティア推進委員会内
電話 03-6822-9900 fax 03-3556-8217 メール shakeout_01@saigai.or.jp
参考文献 次の巨大地震に備える高層ビル室内安全ブック
発行 財団法人 日本法学会